

地独) 北海道立総合研究機構 令和2年度新規重点研究の総合評価(事前)

課題タイトル	研究期間	担当機関 (○:主管)	研究評価委員会の評価結果				総合評価		
			必要性・ の研 究計 画	用成 可果 の活 性	評 価	委員会意見	評 価	意 見	
重点① 北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立	R2 ~5	○花・野菜、 十勝農試	b	b	b	B	にんじんの加工用途、貯蔵による質変化、現行のにんじんの需給体系を考慮し、解明すべき技術的課題を絞り込んで研究開発を進めること。また、本成果により出荷時期を平準化できる地域や条件を検討すること。	B	にんじんの加工用途、貯蔵による質変化、現行のにんじんの需給体系を考慮し、解明すべき技術的課題を絞り込んで研究開発を進めること。また、本成果により出荷時期を平準化できる地域や条件を検討すること。
重点② パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発	R2 ~4	○道南農試、 花・野菜、 上川農試、 北総研	b	b	b	B	パイプハウス用に道内一般農家で導入可能な技術を目指している点が評価される。特に費用対効果の明確化やコスト低減を意識しながら研究開発を進めること。	B	費用対効果の明確化やコスト低減を意識しながら研究開発を進めること。
重点③ 多段式育成手法を活用した道産エゾパワンウニの効率的な種苗生産体系の開発	R2 ~4	○函館水試	b	b	b	B	生産コスト及び省力化の目標を具体的に設定し、最適な組み合わせを検討すること。	B	生産コスト及び省力化の目標を具体的に設定し、最適な組み合わせを検討すること。
重点④ 木質粗飼料を用いた乾乳牛の過肥対策とその実証	R2 ~4	○林産試、 酪農試	b	b	b	B	木質粗飼料給与が腸内細菌叢を含む牛体及び搾乳開始後の乳量・味を含む乳質へ及ぼす影響の有無について確認しながら研究開発を進めること。また、消費者への情報公開方法ならびに費用対効果について検討すること。さらに、海外事例の有無について確認すること。	B	木質粗飼料給与が腸内細菌叢を含む牛体及び搾乳開始後の乳量・味を含む乳質へ及ぼす影響の有無について確認しながら研究開発を進めること。また、消費者への情報公開方法ならびに費用対効果について検討すること。さらに、海外事例の有無について確認すること。
重点⑤ AM技術を用いた高性能鍍ぐるみ部品製作法の開発	R2 ~4	○工試	b	b	b	B	技術開発事例の着実な実用化を図りながら、その研究成果の水平展開を意識して研究開発を進めること。	B	技術開発事例の着実な実用化を図りながら、その研究成果の水平展開を意識して研究開発を進めること。
重点⑥ AIによる自律化を目指したハウス栽培管理作業向けフィールドロボットの開発	R2 ~4	○工試	b	b	b	B	現場ニーズを踏まえ、基本デザインやエンドエフェクタ開発を重点的に進めること。また、作業効率の目標値を的確に設定すること。さらに、研究成果の展開範囲・方法を十分に検討した上で取り組むこと。	B	現場ニーズを踏まえ、基本デザインやエンドエフェクタ開発を重点的に進めること。また、作業効率の目標値を的確に設定すること。さらに、研究成果の展開範囲・方法を十分に検討した上で研究開発を進めること。

課題タイトル	研究期間	担当機関 (○:主管)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
			必要 緊急性 ・	の研 究計 画切 性	用成 果の 性活	評 価	評 価	意 見
重点⑦ 中小型漁船で漁獲された道産マイワシの消費拡大のための高鮮度保持技術の開発	R2 ~4	○釧路水試、ものづくり支援センター	a	b	b	B	B	鮮魚としての販路拡大を視野に入れた漁船や輸送現場で簡単に測れる鮮度指標の開発と普及を検討すること。
重点⑧ 道産冷蔵食品の安全性確保に向けた微生物の発育予測技術の開発	R2 ~4	○食加研、中央水試	b	b	b	B	C	道産冷蔵食品の安全性確保に資する重要な課題であるので、開発する微生物発育予測技術の不確実性評価や安全性確保に寄与する事項を明確にするなど位置付けを明確にして研究開発を進めること。
重点⑨ 水資源開発・管理のための支援システム「水資源Navi(地域別)」の開発	R2 ~5	○地質研、北総研、林業試	b	b	b	B	B	中小河川の水質、水量に関する十分なデータの確保に努め、地下水については涵養量や硝酸等水質の評価を検討すること。さらに、水資源 Navi に水利権の情報を加えること。また、道総研各所に存在する資料データの総合化を検討すること。

※委員会追加意見

追加意見	令和2年度新規重点研究の初年度要望額が予算を上回ったことから、重点研究の趣旨にある「実用化につながる」観点から相対評価を実施した結果、他の提案課題に比べ、重点⑧は安全性を判断するツールとして実用化に至るまでの道筋、利用場面をさらに明確にする必要があるとした。
------	---